

## トレーニー派遣(一日目)

3月16日(水)

去る3月16日、ついに大連でのトレーニー派遣プログラムが始まった。中国への訪問は多くのメンバーにとって初めてで、大きな期待と若干の不安が入り混じる複雑な心境で臨むこととなった。

出国する前に富山空港で結団式が行われた。会場には金沢大学・富山大学・富山県立大学の学生だけでなく、プログラムをご支援いただいた北陸銀行の方々やテレビ局のカメラマンまで集まっていた。北陸銀行の方からの激励のお言葉や各大学の代表による決意表明を聞いたことで、参加者各々がこのプログラムの目的・目標を再確認したようだった。結団式の終盤には3大学の代表ががっちり握手を交わした。



結団式の様子

2時間半ほど飛行機に乗り、無事大連に到着。空港から外に出ると、とても良い天気だった。景色はほんの少しかすんで見えたものの、いわゆるPM2.5の影響はそれほど感じなかった。



大連空港

その後バスに乗り込み、ホテルまで移動。バス内では現地添乗員の方に大連についての基礎知識を教えていただいた。車窓からは大連の街並みが見えたが、大きな建物が多く都会であるという印象を受けた。

ホテルに到着後、金沢大学 OB の于龍さんによるセミナーを受けた。于龍さんは学生時代日本に留学していて、その際様々な場面で日本人に助けてもらったそうだ。そのときの感謝の気持ちが、国際交流に積極的に携わることへの原動力になっているとおっしゃっていた。また、セミナーの途中で于龍さんは私たちに対し「中国に対してどんなイメージを持っているか」という問いかけをされた。すると学生たちからは、

- ・中国人はハングリー精神が強い
- ・長い歴史を持つ国
- ・経済成長を続けており、今や中国製品は世界中に輸出されている

といったポジティブなイメージと、

- ・中国人はマナーがあまり良くない
- ・食の安全に関する問題が多い
- ・同じ中国人の間でも貧富の差が大きい

というネガティブなイメージが挙がった。于龍さんはそれを踏まえて「中国には様々な良い面と悪い面がある。日本のマスコミは悪い面を報道することが多いが、それを鵜呑みにするのではなく自分自身で良い面と悪い面を今回のプログラムを通じて感じてほしい」とおっしゃっていた。この話を聞いて私は、これからの3泊4日で本物の「中国」をしっかりと見よう、と決意を新たにした。



セミナー会場の様子

セミナー終了後はバスでレストランに移動し、おいしい東北料理をいただいた。夕食会の最中に自己紹介の時間が設けられ、各々が参加理由や目標などを発表した。またそれぞれのテーブルで学生間のコミュニケーションが図られ、これから先の研修に向けて良い関係を築くことができたように感じた。

文：人文学類 1年 河野悠太

## トレーニー派遣(二日目)

3月17日(木)

トレーニー2日目は、北陸銀行大連駐在員事務所清水さんによるセミナー、日本の企業三社(ソフトバンク、YKK株式会社、東亜エンタープライズ品川精密電鍍有限公司)の視察、夕食後に雑技団の京劇の鑑賞という大変過密なスケジュールの中で多くの事を学ばせていただいた。

まず、北陸銀行大連駐在員事務所清水さんによるセミナーでは、企業が海外に進出する際の金融システムや、国際物流の手続きの複雑さを学んだ。ただ海外ビジネスを展開させると言っても、銀行、税関、官公庁、輸送会社などたくさんの機関が関わっており、大きなお金が国境を越えて動くという事はとても大変であると感じた。また、近年中国では産業立地の競争力が低下するという現状があり、その背景には国内において賃金、不動産価格、人民元の上昇が起因していると学んだ。その為にベトナム、ミャンマー、インドネシアなどの東南アジアに目が向けられつつあるが、依然として、世界第一位の人口による国内需要や、生産規模拡大と技術水準の上昇による生産性上昇の可能性という魅力が十分にあると感じた。

次に、企業視察一社目のソフトバンクでは、現在、日本のソフトバンクでは、契約の全てが一度大連に送られ、処理をされて、日本のお客様が契約を変更したりする事ができると学んだ。情報が国内外で行き来する事はセキュリティ上の問題が発生しないのかという疑問があったが、大連では、100%ペーパーレス化が図られ、ハードウェアは全て日本に存在していて、パソコンの画面と操作のデバイスだけが中国に置かれているというシステムであった為、セキュリティ対策がしっかりなされていると感じた。また、お客様によるクレーム発生処理のために、日本人のお客様と直接話しをする部署も大連に置かれていて、日本語を話す事の出来るスタッフも多く勤務していた。それほど日本語は中国にとって重要なスキルとして要求されていると感じた。



ソフトバンク株式会社にて



YKK株式会社大連工場にて

企業視察二社目は、YKK 株式会社である。ファスナーの各部位を製造し、組立て、仕上げ、発送まで一貫して行う工場を見学させていただいた。勤務している日本人は十数人に対し、現地の人は千人を超えると教えていただき、大変驚いた。また、80 台もの機械を 1 人のオペレータが担当している部署もあり、オートメーション化が進められていると感じた。日本人、現地の人の間ではしっかりとコミュニケーションが図られ、意見の交換がなされていると感じた。勤務している日本人の中に、YKK 株式会社に入社して 4 年目で、研修として 1 年間大連工場勤務されている方に話を聞くと、海外勤務は若手社員にとって主体的にチャレンジする事の出来る場所であって、多くの成長を得る事ができると教えていただいた。

企業視察三社目は品川精密電鍍（大連）有限公司である。ここでは眼鏡、電気製品、自動車部品のメッキ・塗装が行われている。工場を見学させていただくと、手作業で眼鏡を一つひとつ塗装するなど、製造に人の手が多く関わっていた。また、この品川有限公司は、現社長と現総経理が、二人で 2001 年に中国に渡り、設立した会社であるが、当時二人で中国に来た時には何から始めればいいのかかわからず、迷っていた際に助けてくれたのは、現副総経理である現地の女性であった。この経験から、中国での成功の秘訣は、家族・民族などの族社会の中で、如何にいい人にめぐり会う事ができるかであると教えていただいた。

夕食では「大清花」というレストランで餃子料理をいただいた。餃子の種類が豊富でどれも美味しかった。その後、雑技団の京劇の鑑賞をさせていただいた。体を張った迫力あるパフォーマンスもあり、非常に興味深い経験をさせていただいた。



品川精密電鍍（大連）有限公司にて



雑技団の京劇



夕食でいただいた餃子料理

文：機械工学類 3年 高橋周平

## トレーニー派遣(三日目)

3月18日(金)

トレーニー派遣でもっとも楽しみな日がやってきた！大連理工大学学生との交流会だ。大学に着くとまずは巨大な毛沢東の像が私たちを出迎えてくれた。大学の建物も非常に綺麗で研修生の気持ちもより高ぶっていった。大連理工大学は大連でもっとも優秀な大学と聞いていたので、私のイメージした学生像は将来の夢が明確で、そのために毎日晚学に励み、サークル活動もなく、おしゃれもあまりしないイメージだった。しかし、理工大の学生が待つホールに入ると日本の大学生と変わらない、おしゃれな学生が多くいた。初めに各大学の学生あいさつが行われた。ここでは共通言語として英語を使い、金沢大学代表あいさつの小林くんも英語で立派にやりとげた。その後何人かのグループごとに分かれて交流を行ったが、席についたとたん、お互いに話したいことがたくさんあったのか、場がすぐに盛り上がりとても賑やかな交流となった。ここで驚いたことは学生の日本語レベルの高さである。私たちと冗談を言い合ったり、何不自由なく自然な会話ができる。どのような勉強をしているか気になったため、授業の教科書を見せてもらおうと、難しい日本語の文章が書かれていた。「夜光虫」や「突堤」など、日本人でもあまり使わない単語も多くあり、このような単語でもテストにでるため、しっかり使えるようにしないといけないということだった。このため、日本語のボキャブラリーが多く、会話中でもすぐに単語をアウトプットできるのだなと思った。また、日本に来たことのない学生も多いのに、なぜそんなに日本語の聞き取りが上手いのかも質問してみた。聞いたところ、日本人の先生と積極的に話をし、日本の流行なものを聞いたり、日本のドラマをみたりしているらしい。理工大の学生から聞いた学習法は自分の言語学習の参考になるものだった。その他、将来の夢などを聞いたがまだ決まっていない学生が多かった。金曜日の夜になると校内にある並木道、通称恋人ロードにカップルが多数出現するらしく、休日は近場に飲みに行くこともあるらしい。また、理工大にはサークルも多数あり、私と同じグループの学生は日本語サークルとコスプレサークルに所属していた。交流をしているうちに日本の大学生とあまり変わらないのだなと感じた。グループ内に9月から富山大学に交換留学に行くという学生がいた。富山と金沢は非常に近いので、ぜひ金沢にも来てくれるよう、金沢は加賀百万石の城下町で歴史的な街並みを残しながらも都会的な雰囲気もあること、金沢大学はとても大きなキャンパスで魅力的なことなど、金沢の宣伝も忘れずに行った。金沢に興味を持ってくれたようで、今度遊びに行くと言ってくれた。日本の最近はやりのドラマや流行語についても質問を受けた。あるドラマを紹介すると「寮に帰ったらすぐ調べてみる」と目を輝かせていた。本当に日本に興味がある学生ばかりだった。あっという間に別れの時間となったが、同世代と交流できたことで私の目的であった中国と日本の学生の違いをみたいという目的も達成された。大きな違いはなかったが、勉強しているものを自分のものにできている学生が中国には多い気がした。

次に旅順視察で二〇三高地などを観光した後、三大学合同懇親会が行われた。最後の晩餐ということでアワビなどとても豪華な夕食だった。大連で働く金大OBや富大OBの方と食事をしながら話せたので世間話など、気軽に交流できた。最後に一人ずつトレーニー派遣プログラムの感想を述べたが、大連に来た時より研修生全員が堂々としていると感じた。たったの三泊四日だったが、一日一日の内容が本当に濃く、自分の目、耳で体験できたことが一生の財産となったすばらしいプログラムだった。



文：経済学類 2年 久保山真帆